The International Center Newsletter

TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター　ニュースレター

Vol. 24　Fall, 2014

1. Hello from All Corners of the World!

今号の最初の学生は、2度の交換留学を経験した嵯峨山　友紀君です。それも台湾とオランダという全く異なる国への留学です。台湾では中国語と英語をマスターし、さらには300人以上にボランティアで日本語を教えるという活動までして帰国しました。現在は、オランダでも継続してその活動を続けています。どこに行っても、自分だけの留学を模索し続けているチャレンジ精神旺盛な姿勢は、これから留学を目指す学生の皆さんにも参考にしてほしいです。

嵯峨山（さがやま）　友紀（ゆうき）（法学部3年次生）

2013年、私は台湾の文藻外語大学へ交換留学しました。そして、現在はオランダのフォンティス応用科学大学に2度目の交換留学中です。今、オランダでこの記事を書いています。

私がここで伝えたい事は海外留学の素晴らしさです。ほとんどの学生が、海外留学とは語学を習得するために行くものと考えているかもしれませんが、それは留学のほんの一部でしかありません。また、語学力だけならば、努力次第で日本でも身につけることができます。では、語学習得以外に何があるのか。

海外留学を一言で表すならば「チャレンジ」です。この「チャレンジ」は留学前から始まっています。まず、留学という目標に向かって長期間コツコツ一人で準備をしなければなりません。行きたいと思っても翌月すぐに行けるわけではなく、勉強、願書提出、面接、留学手続き、事前授業など、出発まで最低約1年は準備期間が必要です。実際のところ準備期間、留学期間を含めると2年ほどは、海外留学という一つの目標に向かって「チャレンジ」し続けることになります。

そして、留学が始まると、留学先の環境にも「チャレンジ」です。一歩海外へ出ると日本語は通じません。通じたとしても、日本で生活しているのとは違います。現地の言語で周りの人たちと会話し、授業を受け、友達を作らなければなりません。これは本当に大変ですが、全て乗り越えて帰国するころには、誰もが大きく成長します。

また、留学には他にも様々な「チャレンジ」の機会があります。私が個人的に取り組んでいるのは、日本語や文化を教える活動です。これを台湾留学中に始めて、帰国してからも日本でアルバイトとしてやっていました。そして、現在もオランダやお隣の国ベルギーで教えています。先日はチェコ共和国、ドイツ、リトアニア、ベトナム、香港、台湾の人たちに日本語を教えました。教えるときは英語、中国語を使います。最初は大変でしたが、1年以上続けているので、今は楽しんで教えられるようになりました。私はこの活動を通じて様々な人に出会いました。そしてこの特別な経験は、私の貴重な財産になっています。

オランダで私が今取り組んでいるもう一つの「チャレンジ」が国際法の授業です。この授業はレベルが高すぎるため、通常交換留学生が履修することは出来ません。しかし、私はそこで諦めず、担当の教授に直接お願いをしに行き、授業を受ける許可を得ました。オランダ人とドイツ人学生しかいないクラスに日本人一人で頑張っています。内容はとても難しいですが、これも「チャレンジ」です。最後まで全力を尽くして、必ずそこから何かを

フォンティス応用科学大学の交換留学生たちと(本人前列左端)

日本語授業の様子(上)台湾 (下)オランダ

目次:

Hello from All Corners of the World!	1-3
キャンパスできる国際交流: Buddy Program	3
2014岸辺祭: 国際通りで留学生奮闘！	4
私のオススメ in Hawaii: Hideaki Miyahara	4

得たいと思います。

もちろん日本でも様々な事にチャレンジする事はできます。しかし、例えば日本語を教える活動一つを取っても、日本でするか海外でするかでは得るものが全然違うと思います。海外では何も整っていない環境で、自分ですべて考えてやっていくわけですから、もちろん海外の方がより多くの経験を得ることができるでしょう。私はそう思っています。

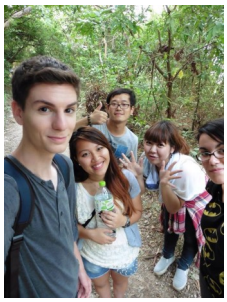
交換留学ほど安価で長期間の海外留学ができるチャンスはないと思います。小学校からの16年間の学生生活の締めくくりとして、交換留学という大きな「チャレンジ」をしてみてはどうでしょうか？国際センターはどんな些細な質問でも真摯に答えてくれます。もし少しでも海外留学に興味があるなら国際センターに足を運んでみてください。私も帰国後であればいつでも皆さんの相談に乗ります。

フォンティス応用科学大学の留学フェアで本学のマイク・マツノ国際センター所長と(本人右)

次は、台湾の文藻外語大学に留学中の岩井 優奈さんです。岩井さんは、1年次生の時に夏期海外研修で文藻外語大学の中国語研修に参加しました。この研修で台湾の人たちの温かさに触れた岩井さんは、どうしてももう一度台湾で勉強したいという強い思いから交換留学を目指し、見事夢を実現しました。岩井さんも嵯峨山君同様、様々なことに積極的に挑戦している学生です。大変だと思っても、敢えてそれに挑戦する強さも持っています。留学中の彼女の目標の一つは、派遣先大学のある高雄のガイドブックを作ることです。彼女の視点から見た高雄が、どのようにガイドブックという形に表現されるのか今から楽しみです。奮闘する彼女の留学生生活の一端をご紹介します。

岩井 優奈（経営学部 ホスピタリティ経営学科3年次生）

台湾での生活は、本当に大変なことばかりからのスタートでした。寮では、中国人2人と台湾人1人と私の4人部屋で、皆とても親切だったのですが、中国語が流暢に話せない私は日々アウェー感を感じていました。また寮の規則が厳しいこと、日本で当たり前だったことが台湾では当たり前ではないことを受け入れるのが大変で、最初のスタートは想像以上に厳しかったです。そして理解してくれる両親、友達、先生が身近にいないことが何よりも辛く、落ち込む日々が続きました。



留学たちと(本人右から2人目)

立ち直るきっかけになったのは、台湾に来て4日目に迎えた誕生日でした。なんと友達やルームメイトからたくさんのプレゼントをもらい、さらに周りの人たちからケーキを4つももらったのです。本当に感動して何度も泣きそうになりました。優しく温かい人たちに囲まれているおかげで、最初の大変だった日々を乗り越えることができました。今は自分でもびっくりするほど気持ちを切り替えることができ、中国語で会話できるようになりたいという一心で、日本にいた時には考えられないくらい勉強するようになりました。今ではルームメイトと中国語で少しずつ会話できるようになりましたが、いつも根気よく私に付き合ってくれるみんなにはとても感謝しています。早く話せるようになって、スムーズにコミュニケーションが取れるようになりたいです。

こちらに来て1週間で、留学の大変さを身に染みて感じましたが、これほどまでに熱中できることがあることに今はとても幸せを感じています。そして、台湾人の学生や他の国から来た留学生の勉強に対する意欲や向上心に驚かされてばかりなので、私も負けないように最後まで力を尽くしたいと思います。そして留学に関わってくださった方々への恩返しとして、自分なりの最高の留学になるように頑張ります。

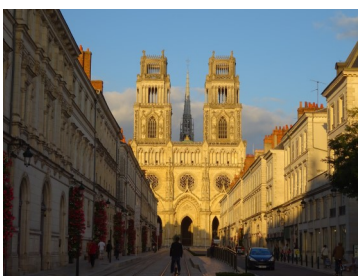
文藻外語大学の文化祭で
(上) 本人左端 (下) 踊りを披露する様子

最後は、フランスのオルレアン大学に留学中の福居 春日君です。福居君はとても真面目な学生で、どんなこともきちんと取り組んでいます。彼は常に成績で“S”を取るという高い目標を掲げ、人一倍勉強に力を入れて学生生活を送ってきました。その彼が1年次生の時から目標の一つとしていたのがフランス留学です。彼の留学生活は始まったばかりですが、留学に行くことによって元々持っていた彼の良さにさらに強さが加わって、すでに積極性が出てきた気がします。歴史と文化に溢れるフランスでの留学生活をご紹介します。

福居（ふくい） 春日（はるひ） （外国語学部3年次生）

こちらに到着した8月末は、まだまだ夏の日差しが痛いほど強く、1週間でかなり日焼けてしまうほどでしたが、近ごろは暑さも和らぎ、吹く風も涼しくなってきました。私のいるフランスは、歴史や文化に触れることのできる場所がたくさんあり、こちらにいる間にフランス語の修得に力を入れるだけでなく、色々な場所を訪れたいと思っています。今回は私の留学の一端をご紹介します。

まず、私のいるオルレアンです。この街は実は歴史的にとても有名な場所です。百年戦争でフランスを救ったジャンヌ・ダルクはこの地でイングランド軍に立ち向かい勝利へと導いたのです。オルレアンのシンボル、サント・クロワ大聖堂には、奇跡の少女ジャンヌ・ダルクの生涯を描いた美しいステンドグラスが装飾されています。そして、聖堂だけでなく町のいたるところで聖女ジャンヌ・ダルクに出会



ジャンヌ・ダルクのステンドグラスが有名な
サント・クロア大聖堂

うことができます。そのため、ここにいるとジャンヌ･ダルクの魂が今もこの町に生きていると感じます。このように、日本で学んだ知識や想像した風景が実際その地を訪れることで、はっきりとした輪郭をもって心に刻まれることに感動しています。また、この国にあふれるたくさんの魅力の一つ一つが今後の私を創る要素になると思うと楽しみでなりません。

次に、オルレアン大学についてです。敷地の中心には大きな湖、周辺には芝生や木々があります。そこは大学というよりも公園のような美しい景観が広がっていて、とても落ち着いた環境です。芝生を散歩すると、運がよければ野ウサギに出会うことがあり、動きの素早い野ウサギのベストショットをカメラに収めたときは感激しました。

こちらでの授業が始まるまでの1週間、ウェルカムウィークがあり、この期間内にキャンパスの施設案内、周辺のお店や公共施設の紹介があったので、今では何不自由なく生活できています。また、様々なイベントもあり、その一つであるピクニックでは、この大学に来ている世界各国の留学生たちとふれあうことができました。その時に事前に準備していた会話表現がとても役に立ちましたが、やはり日常の会話となるとそれだけでは不十分で、表現や単語さえまったく出てこなくなったり、簡単な質問への返答にも戸惑ったりすることもありました。

とにかく今は授業中に発言したくてたまらないので、今よりもっと深く授業に参加したいという一心でフランス語と向き合っています。

(上)ノルマンディー地方カンの城塞で
(下)友人たちと(本人後方左から2人目)

2014-2015交換留学生の海外での様子を随時Blogにアップしています。
Please check it out! http://inoffice.blog102.fc2.com/

2. キャンパスで出来る国際交流: Buddy Program

OGUではキャンパスでできる国際交流プログラムとして、Buddy Program、CETルームシェア、Team SOS (Support Our Students)などを実施しています。その中でも、このBuddy Programは一番規模の大きなものです。毎年8月末に受入れ交換留学生を迎えますが、その留学生を全面的にサポートするのがBuddy、すなわちOGUの在学生たちです。留学生が来日する前にBuddyになっているOGU生と留学生をマッチングします。年々増え続ける留学生が日本の生活にできるだけ早く適応し、より良い留学生活を送るために、Buddyの協力は必要不可欠です。今回は実際にプログラムに参加したOGU生万 慧さんの手記です。彼女は中国語と日本語のバイリンガルで、中国、台湾から来る留学生たちにとっては、非常に頼りになるBuddyの一人です。

万（わん） 慧（ふぃ）（外国語学部2年次生）

私は、このBuddy programに参加して、たくさんの国の文化と言語について学ぶことができました。ここで、私が学んだことについて少しお話ししたいと思います。

Welcome Partyで(本人右)

私は、以前から外国の文化や言語にとても興味があったので、昨年初めてこのプログラムに参加しました。このプログラムでは、日本に到着したばかりの学生をホームステイ先やアパートに連れて行ったり、一緒に市役所や区役所に行って様々な手続きをしたり、留学生向けのイベントの手伝いをしたりします。参加する前の私は、ほとんど英語を話すことができず、おまけに聞き取りもできませんでした。留学生とのコミュニケーションができるだろうかと心配していましたが、お互いが相手のことを知ろう、話していることを理解しようという気持ちがあるとどうにかなるものです。最初は、私が知っている数少ない簡単な英単語を使ったり、わからなければ何回も何回も留学生に聞き直したり、英語の表現を教えてもらったりしてしながら、コミュニケーションを取りました。その後もできるだけ積極的に留学生たちが参加するイベントに参加することにより、徐々に英語で上手くコミュニケーションが取れるようになったように思います。また、さらに良かったのは、英語だけではなく、韓国語も少し話せるようになったことです。

このプログラムに参加したことで、私は外国のことをもっと知りたくなり、今年もまた参加しました。昨年の経験を活かして、今年は最初から積極的に留学生と関わることができました。留学生のウェルカムパーティーの司会者をしましたが、彼らが会場に入場してくる姿を見て、本当に感動しました。また、パーティーで留学生たちと会話をしていると、まるで海外にいるかのように感じました。すでにたくさんの留学生と友達になり、様々な国の文化や言語に触れています。これからも、大学で会うだけでなく、色々な所に一緒に行き、たくさんの思い出を作りたいと思います。

(上)留学生と一緒にイベント参加(本人右)
(下)ウェルカムパーティーの様子

Buddy Programは、今では私の大学生活の重要な一部になり、これがあるからこそ充実した大学生活を送ることができています。また、このプログラムに参加したからこそ、外国人留学生と交流することができ、異文化を学ぶことができました。さらに、英語での会話力、コミュニケーション力も向上させることができました。思い切って、このプログラムに参加して、本当に良かったと思います。

留学生と交流してみたい、もっと視野を広げたいと思っているあなたにとって、このプログラムはとても良いと思います。ぜひ一歩前に出て、思い切って参加してみてください。

3. 2014岸辺祭：国際通りで留学生奮闘！

10月18日・19日に実施された岸辺祭：百花繚乱では、今年も世界から集まった留学生たちが奮闘しました。今年は人気の「焼き餃子」、フランスのドーナツ「ベニエ」、ベルギーの「ワッフル」、バルバドスの伝統的なおやつ「ベークス」を販売しました。留学生とOGU生たちが主に日本語と英語でコミュニケーションを取りながら、協力して事前準備、そしてブース運営をしました。当時は、日ごろお世話になっている先生方、多くのホストファミリーやホームビジットファミリーの方々がブースに足を運んでくださいました。ご参加いただきありがとうございました。ここでは、ブースリーダーの一人、ドイツのバイロイト大学からの交換留学生Felix Van Helden君の手記を掲載します。

Felix Van Helden（バイロイト大学）

初めての岸辺祭が終わりました。この経験は、たくさんの友人たち、カラフルなブースの数々と共に、いつまでも私の心に忘れられない思い出として刻まれることでしょう。私たち留学生もかなり前からがんばって準備を進めていましたが、OGUと学生たちが、この岸辺祭にとても力を入れていることが、素晴らしい岸辺祭になる秘訣だと言えるかもしれません。岸辺祭当日は、私たちのブースではバルバドスの「ベークス」を販売しましたが、みんなでワイワイ楽しみながら作りました。会場内の他のブースでも、色々な食べ物、ドリンクが販売されていました。どこもカラフルなポスターを作って上手く宣伝しているなと感心しました。また、チアリーダーのパフォーマンスやステージでのバンド演奏などがさらに岸辺祭に花を添えていました。今思い返すと、2日間は楽しく、そして少々疲れました。でも岸辺祭が成功裡に終わったことを思うと、すべての努力は報われたと思いますし、参加して本当に良かったと感じています。

岸辺祭ブースでの様子

“Yo-Yo てっ何?”から始まる異文化交流

岸辺祭では、留学生がブースを出すのに加えて、商学部白井義雄ゼミ生たちのヨーヨーブースに参加し、日本の学園祭を体感しています。

白井ゼミでは、このヨーヨーブースを運営するにあたり、ゼミのクラスを会社と見立て、それぞれの学生が社長、仕入れ部長、財務部長などを担当しているそうです。疑似会社経営を体験できるのは、学生たちにとっては今後役立つ面白い内容だと思います。

さて、ヨーヨーと言っても、留学生たちには初体験で、通常彼らが想像するヨーヨーは、紐が付いて上下に動く物です。ということで、岸辺祭に先駆け、まずはヨーヨーとは何かを体験してもらうことになり、ゼミ生たちが国際センターに来てヨーヨー体験を実施してくれました。ヨーヨーを知らない留学生たちのために、ゴムに水を入れて作るヨーヨーを実際に見てもらうところからスタートしました。日本語が流暢でない留学生が大勢いるため、ゼミ生たちは英単語とボディーランゲージを駆使して、一生懸命作り方を説明してくれました。やってみたものの途中で破裂したり、水を入れるのが上手くいかなかったりとハプニングはありましたが、初めて見るヨーヨーを手にした留学生たちは楽しそうにしていました。

お天気に恵まれた岸辺祭当日は、留学生たちがヨーヨーブースでヨーヨーを作ったり、日本語を使って接客をしたりとブース運営に一役買いました。カラフルなヨーヨーも留学生たちの日本の思い出の中に刻まれたことと思います。

私のおススメ in Hawaii～Hideaki Miyahara

現在の「リゾート地ハワイ」になるまでには歴史的に様々なことがあったわけですが、私にとってのハワイは、素直に「青い海と空」、「白い砂浜」、「色とりどりの花」を楽しむことができる素敵な場所です。そしていつもお天気が良く、気持ちが朗らかになる、そんな場所です。そのハワイでのお勧めは、最近日本にも進出したのでハワイにいかなければ食べられない味ではなくなりましたが、地元で1、2を争う人気のハンバーガーチェーン「テディーズ・ビガー・バーガー(Teddy's Bigger Burgers)」です。ワイキキ店はダイアモンドヘッド側にあり、ビーチからも近く、ロケーションも最高です。ハワイに来たなぁという気持ちになれるそんなハンバーガーショップです。ハワイに行く機会があれば、ぜひこの店に足を運んでみてください。（庶務課 スタッフ）

※「私のおススメ」コラムへの投稿を募集します。興味のある学生、教職員は国際センターまで！

大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部
国際センター

〒564-8511　大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号
TEL:　06-6381-8434（代表）
FAX:　06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
http://inoffice.blog102.fc2.com/

2014.11.7発行